

2019年秋学期の全時間訓練のための
メッセージアウトライン

主題：
クリスチャン生活

メッセージ 11
ミングリングされた霊の中で生きる

聖書：I コリント6:17. 1:9. 7:25, 40. ローマ8:4

- I. 新約の本質は、二つの霊、すなわち、神の霊と人の霊がミングリングされて、一つ霊になることです——I コリント6:17. ローマ8:4:
- A. 神のエコノミーの焦点は、ミングリングされた霊、すなわち、神の霊と人の霊のミングリングです。すべて神が行なおうとすること、達成しようとするのは、この焦点と関係があります——エペソ3:9, 5. 1:17. 2:22. 4:23. 5:18. 6:18。
 - B. I コリント第6章17節の「結合される」という言葉は、信者たちが主の中へと信じることを通して、主と有機的結合を持つことを指しています——ヨハネ3:15-16. 15:4-5。
 - C. 「一つ霊」という表現は、その霊である主とわたしたちの霊とのミングリングを示しています：
 - 1. 主と一つ霊であることは、わたしたちが主の中におり、主がわたしたちの中におられることを暗示しています——ヨハネ15:4-5。
 - 2. わたしたちと彼は有機的にミングリングされ、命の中で一となっています——ヨハネ14:19。
 - D. わたしたちの霊と主の霊とのミングリングであるその霊は、主の霊とわたしたちの霊の両方です——ローマ8:4. II コリント3:17. I コリント15:45後半. 6:18。
 - E. ミングリングされた霊は、神と一つ霊である霊です。この霊は、神格においてではなく神の命と性質において神と同じです——I ヨハネ5:11. II ペテロ1:4：
 - 1. 神聖な霊と人の霊は、わたしたちの内側でミングリングされて一となっています。それによってわたしたちは、神・人の生活、すなわち、神であるが人であり、人であるが神である生活を生きることができます——ガラテヤ2:20. ペリピ1:19-21前半。
 - 2. 神・人の生活は、二つ霊の生活です。二つ霊とは、神の霊と人の霊のことであり、それは結合され、ミングリングされて、一になっています。
 - F. 正当なクリスチャンとなるために、わたしたちが認識しなければならないことは、主イエスが今日、三一の神の具体化として、その霊であって、わたしたちの霊に内住していることと、またわたしたちの霊とミングリングされて、一つ霊になっているということです——II コリント3:17. I コリント15:45後半. 6:17。
 - G. わたしたちのすべての霊的経験、すなわち、わたしたちと主との交わり、主に対す

る祈り、主と共に生きることは、このミングリングされた霊の中にあります——ローマ1:9, 7:6。

II. わたしたちは主と一つ霊であることによって、彼をすべてを含む方として経験することができます——I コリント1:2, 24, 30. 2:8, 10. 3:11. 5:7-8. 10:3-4. 11:3. 12:12. 15:20, 47, 45 :

- A. わたしたちがキリストを経験し、キリストを享受し、キリストを生き、キリストをすべてとして取ることができるのは、彼と一つ霊になったからです——6:17。
- B. わたしたちは主と一つ霊であるとき、神の御子、わたしたちの主イエス・キリストの交わりの中にいます——9節。
- C. 主と一つ霊である者に対して、その供給は無尽蔵です。

III. 究極的に、聖書はただ一つの事をわたしたちに要求しています。それは、わたしたちがミングリングされた霊にしたがって歩くということです——ローマ8:4 :

- A. すべてのことに対するかぎは、すばらしい霊の中にあります。彼はわたしたちの再生された霊の中におり、わたしたちの霊と一つ霊になりました——I コリント6:17。
- B. 主に近くあることや彼の臨在の中で歩くことは、彼と一つ霊であることと同じではありません——エペソ3:16-17. コロサイ3:4, 10-11。
- C. わたしたちが主イエスを信じたとき、彼はわたしたちの中に枝を出し、わたしたちは彼にある枝となりました——ヨハネ3:15。
- D. ヨハネ第15章4節から5節の相互の住み合いは、主と一つ霊となることの実行です。
- E. わたしたちは霊の中で生きる時、自然と十字架を担います——マタイ16:24。
- F. わたしたちに起こるすべての事は、わたしたちが霊の中に生きているか、それとも自己の中に生きているかをテストします——ローマ8:28。
- G. サタンを沈黙させる最上の道は、霊の中に生きることです——啓12:11 :

- 1. サタンが侵入することができない唯一の場所があります。それはわたしたちの霊です。
- 2. わたしたちがサタンの権威の下にいるかどうかは、わたしたちが行なう事によって決定されるわけではありません。むしろ、それは、わたしたちが霊の中にいるか、それとも肉の中にいるかによって決定されます——ガラテヤ5:16-17。
- 3. ミングリングされた霊の中にとどまっている限り、わたしたちは守られ、サタンはわたしたちになすすべはありません——I ヨハネ5:4, 18-21。

IV. ミングリングされた霊の中で生きることは、最高の霊性を持つことです——I コリント6:17. 7:25, 40 :

- A. I コリント第7章は、主を愛する一人の人の霊を表明しています。彼は、地上での主の権益に関心を持ち、主に対して絶対的であり、主と一であり、あらゆる面において従順であり、神に服従し、神と彼の案配した環境に満足しました——20, 24節 :
- 1. パウロは神と完全に一でした。パウロは、コリントの信者たちが神と一になること、自分からは何事も開始しないことを望みました——17-24節。
- 2. パウロは完全に主と一であったので、彼の教えと答えの中で、自然に、また無意識のうちに、絶対的な霊を表現しました——6:17 :
 - a. パウロは卓越した霊、すなわち、従順で、足ることを知った、満足した霊を持

っていました。

- b. パウロはそのような霊を持っていたので、彼がコリント人たちに答えた方法は、彼らを助けて、彼らも自分たちの状況の中で神と一になることができるようにしました——7:24。
- B. パウロは主と一であったので、パウロが語った時、主は彼と共に語りました。こういうわけで、I コリント第7章においてわたしたちは、新約の言が肉体と成る原則の模範を見ます——10, 12, 25, 40節：
1. 言が肉体と成る原則とは、神が人の中に入り、ご自身を人とミングリングさせ、人をご自身と一にすることです。こういうわけで、神は人の中におり、人は神の中にいます——ヨハネ15:4-5。
 2. 新約の中で、主はご自身の使徒たちと一になります。また彼らは主と一になって、主と共に語ります。こういうわけで、主の言葉は彼らの言葉となります。また彼らが語るものは何であれ、主の言葉です——I コリント2:12-13。
 3. パウロは、言が肉体と成る原則の中でI コリント第7章を書きました：
 - a. 10節の原則は、ガラテヤ第2章20節の原則と同じです。それは肉体と成る原則です。すなわち、二つのパーソンが一人のように生きることです。
 - b. パウロは主と一であったので、主の心と意思を知っていました。
 - c. パウロはそのような程度にまで主と一であったので、自分自身の意見を述べた時、自分も神の霊を持っていると思いました——40節。
 - d. 25節と40節で、わたしたちは最高の霊性を見ます。すなわち、主と全く一となり、主で飽和されて、自分の意見でさえ主の意思を表現した人の霊性です。
 - e. わたしたちは思っていることを発表しますが、もしわたしたちがその霊で浸透されるなら、それは主から出たものともなります。なぜなら、わたしたちは主と一であるからです——6:17。